

交流の場から始めるまちづくり

誰もが気楽に参加できて、話を聞いて帰るだけでもよし、発言して意見交換するもよし、話題提供もよし、参加者間の交流もよし……。

「楽しく気楽に、まちづくりを住民主体で語り合う」、住之江区まちづくりフォーラムはそんな場なんです。

このように、参加者みんなが役割を押しつけられることもなく、お互いの自由な立場を尊重しながら、個人が自主的に集まって2ヶ月に1度の情報交流の場(ラウンドテーブル)を持っています。

まちづくりフォーラムでは、これまで、まちや暮らしに関する、環境、福祉、教育、文化など様々な分野で、話題の提供・提案や活動報告などが行われ、活発な意見交換など情報交流の場が形成されています。

まちづくりラウンドテーブルから

このフォーラムの情報交流がきっかけで、人・情報の輪が少しずつ広がってきて、

「お互いを認め合うゆるやかなつながり」
や「自分が地域に対してできること」など、

フォーラムから独立して、具体的に環境美化活動を実践されて美しいまちづくりに取

り組まれたり、高齢者と子供の新たなふれあいの場ができたり、団地でのペット問題の小さなラウンドテーブルが新たにできたり……。

これらは、小さな動きかもしれませんが、フォーラム参加者の地元などで新たな身近なまちづくりを実践されている方もいらっしゃる、という話もありました。



あなたも まちづくりフォーラム に参加しませんか？

あなたも自由な立場で、まちづくりのふれあいの輪に入りませんか？
ご自分のご都合に合わせた自由参加です、お気軽にお越し下さい。

次回は6月12日(木)午後7時から 区役所4階第1会議室で
開催します。《原則、毎偶数月の第二木曜日に開催しています》

小さなラウンドテーブルの取り組み例

4月24日のフォーラムでの話題は、南港地区の岡本さんから、集合住宅団地でのペット問題に取り組む小さなラウンドテーブルの話でした。

ペット問題は、これまでのフォーラムで取りあげられていない分野の話であり、また、フォーラム参加者の地元地域で新たなミニラウンドテーブルが生まれたというものでした。

その話の概要は次のようです。

南港地区の集合住宅団地での取り組み

集合住宅では管理組規約等によりペットの飼育が禁止されているが、近年、ペットを飼育する人が増加してきている。そして、管理組合。町会などでの取り組みには限界があり、問題が解決しない。

最近では、「人と動物の共存」、「生活の潤い・安らぎ」が求められる一方、「コンパニオンアニマル」との意識から人生の伴侶として飼育される傾向もみられる。

しかし、糞尿の放置や鳴き声、抜け毛など様々な生活環境の問題が放置され、一向に解決しない。

このため、小さなラウンドテーブルを住民主体で呼びかけ、ペット賛成の人でも反対の人と一緒にテーブルについて、お互いの意見を尊重しつつ望ましい生活スタイルのあり方を話し合う場が設けられた。

現在はまだ取り組み途中であり、社会動向の推移、飼育現状の把握、問題点の整理を進めていて、今後、望ましいライフスタイルへの対応を検討しようという取り組みです。

このように、取り組むテーマを絞ったラウンドテーブルで、今後どのようにまとまっていくのかは未知数ですが、将来には、身の回りの住環境など、幅広い分野のまちづくりを話し合う場になれば、さらに望ましい方向に進むのではとの期待がもたれます。

動物の愛護に関する世論調査の概要

(総理府 平成12年9月発表)

問：ペット飼育が良い理由。

回答：(複数回答)

- | | |
|-----------------|-------|
| ・生活に潤いや安らぎが生まれる | 51.2% |
| ・家庭が和やかになる | 42.5% |
| ・子供達が心豊かに育つ | 40.6% |
| ・防犯や留守番に役立つ | 28.1% |
| ・育てることが楽しい | 24.7% |

集合住宅地域での現状

- ・管理規約：観賞用魚類・小鳥類以外は飼育禁止
- ・管理組合：立て看板、掲示等による規約遵守、注意を呼びかけ。共有財産の管理が目的。
- ・現状：黙認状態、迷惑・苦情は個別対応。迷惑行為・迷惑環境等が減らない。
- ・町会：対応できない場合も多い。



- ・ペット問題を話し合う場がない。
- ・住民主体の情報交流の場を設置した。

分離や排除で問題は解決しきれるのかな？

まちづくりフォーラムのアドバイザーである久先生(近畿大学理工学部助教授)は、今回の岡本さんの「ペット問題」について、次のような提起をされました。

「大学の男子学生が卒業論文のテーマとして『女性専用車両問題について研究したい』ともちかけてきました。理由は女性と男性を分けて問題を解決するという事に違和感をもち、もう少し掘り下げて考えてみたいということでした。

実は岡本さんのペット問題は、女性専用車両問題や最近の喫煙・禁煙問題と同じではないかと思っています。つまり、「分離・排除」することで問題を解決しようという動きが共通しているかと思っています。けれども先ほど岡本さんのお話にあったように、分離や排除(ペットを飼っている人)はしきれないわけです。

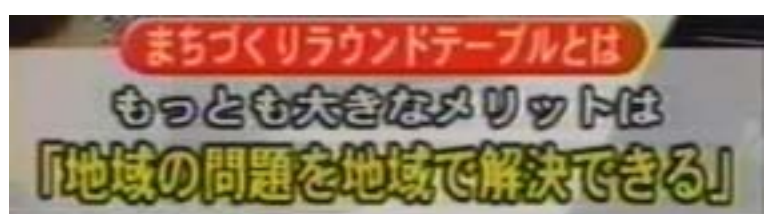
色々な考え方の人、色々な立場の人がいかに共存・共生していくかを考えていく、お互いが折り合いをつけて問題の解決の方法を考えていかなければならないと思っています。」と話されました。



ややこしい時代だからこそ、皆で話し合い皆で知恵を出し合って！

久先生は問題解決には話し合いが最重要としながら、ただ、「話し合いの“やり方と場所”が、今まで見つかっていなかった」として、その「“良い解決方法”を探る“良い話し合い”」として、「ラウンドテーブル方式」を提案されています。

そして「1年や2年はかかるかもしれませんが、時間をかけてお互いの思いを出し合って、お互いの気持ちがあったときに、良い解決方法が見つかるのだと思います。」とし、岡本さんが今回実践しているラウンドテーブルに期待している・・・とのことでした。



区役所からのお知らせ

住之江のまちの案内ボランティアになりませんか？！

区役所では、区内居住者や住之江区を訪れる方に、ちょっと“世話やき”をして、まちの魅力をしゃべってくれるような「案内ボランティア」養成講座を開催することになりました。

については、「案内ボランティア」の役割など十分理解を深めていただくために、事前説明会を開きます。多数のご参加をお願いします。
(詳しくは区広報紙「さざんか」6月号をご覧ください)

日 時	平成15年7月1日(火)午後7時～(1時間程度)
場 所	住之江区役所 4階 第1会議室

編集後記

「住民主体のまちづくり」といわれても、どのように進められていけばいいのかの模範的な答えはありません。また、住之江区に関係のない他の地域の人々が考えることでもありません。

住之江区の住民や勤労者らの一人一人が、自分の生活スタイルを考え、それぞれの夢や思いを話し合い、自分ができることに取り組むところから始まるのでしょうか？

そんな新しいまちづくりに向けた、住民主体のまちづくり情報交流の場である、まちづくりフォーラムの活動は、大きな意義のあることだと思えます。

最近、情報・交流の輪が少しずつ広がってきて、住之江区に住んでいる人だけではなく、区内に働く人も一緒になって話し合いが広がり、このフォーラムはさらに楽しくて幅広い人々とのふれあいの場になってきています。

これからも、住之江区のまちづくりに関心のある人の、生の声・顔を合わせた交流の場にお気軽にご参加ください。

まちづくりフォーラムの紹介ホームページ

住之江区.....<http://www.city.osaka.jp/suminoe/educate01.html>

(財)都市工学情報センター...<http://www.osakacity.or.jp/machi/community001a.htm>

お問い合わせ

住之江区役所企画振興係(6682-9974)まで